
憑依 神の力を操るもの

九留須

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

憑依 神の力を操るもの

【Nコード】

N9838V

【作者名】

九留須

【あらすじ】

父を失った一人の少年・・・父の仕事を継ぐがその仕事内容は・・・。
軽い気持ちで見えてってください。がんばって書きたいと思うのでよろしく！！

プロローグ

父さんが亡くなり、普段当たり前のようにはしていたことができなくなっていた。

それは、父の仕事を継いだからだ。母さんは、かなり反対していたが、俺が「父さんがやった仕事を俺がやらなくてどーすんだよ」といったらかあさんも許してくれた。

でも、それはとても意外な仕事内容だった・・・。

母さん「お父さんのやってた仕事は、神谷家の人を守ることよ。あなたは幼馴染の、千鶴ちゃんを守ること」

衛「なんでんなことしなくちゃ・・・」

母さん「でも、お父さんは誇りを持ってやってたわ。それにあんたあのこのこと好きなんですよ。だったらあんたが守ってやんなさい。妖からね・・・」

衛「好きじゃねえし。それに妖って何だよ!!」

母さん「あれ、あんたにはまだ話してなかったつけ。妖はね、神谷家を襲う悪いやつだよ。神谷家の神の力を狙うね」

衛「神の力・・・？」

プロローグ（後書き）

これからがんばって書くんでは応援よろしくお願いします。

第一話 「神の力・・・」

衛「神の力・・・」

母さん「そう。代々、神谷家は、神の力を持ち。その神谷家に仕える、神仕家は、神の力を操れる」

衛「いまいちよくわかんないけど、その神の力を使って、千鶴を守ればいいんだろ」

母さん「そういうこと。あとは、聞くより実践あるのみ。あつ、神の力は千鶴ちゃんを守るときにしか発動しないから。戦うにはまず「憑依」というの」

衛「何で憑依なんだ？」

母さん「それは日本にはあらゆるものに神様がいて言うじゃない。それは本場で、その神様を憑依して戦わないと、人間の力だけじゃ到底、妖には敵わない」

衛「へー。じゃ実践あるのみだな」

数日後・・・

千鶴「また妖よ。もーきりないわね」

衛「くそ。今日だけで三体目だぞ」

千鶴「衛、前っ」

・・・ゴン（なんとも鈍い音）

衛「いつてー。やりやがったな、憑依」

衛が光に包まれる。

衛（槍モード）「おらーーーーー」

ズシャ

槍が妖を貫く。音もなく妖は消えていった。

衛「解」

またも衛が光に包まれていく。

千鶴「ありがとね」

衛「おまえのためじゃねーよ」
顔を赤らめながら言う。

千鶴「なにそれー、まいっか」

衛「なんだそれ、そこはもうちよとツツコミとか入れろよ」

千鶴「いいもん、衛が無事ならそれで・・・」

・・・少しの沈黙の後

衛「妖だ。いくぜ、憑依」

第一話 「神の力・・・」（後書き）

はい。今回は、衛の憑依した状態のモードを皆様に考えてもらいたいです。

皆様の考えてくれたモードは極力出したいです。

注意

チート並も強さはなしで・・・

一応衛はどんなものでも使いこなせると考えてもらって結構です。
以上

内容

使う武器 モード

必殺技

できるだけ具体的によりしくお願いします。

尚、締め切りは8 / 22 9 / 11 までとします。

第二話 「憑依の力」

母さん「そういえば、まだ憑依のことあんまり詳しく話してないね」

衛「確かに……。でも、俺ちゃんと使いこなせてるよ！」

少し考えてから……

母さん「まだあんた憑依で槍しか出したことないわね……」

衛「ああ。十分使いこなしてるぜ」

母さん「あんたね、槍だけじゃないのよ。ほかにも両手剣、矢が使えるのよ」

衛「へー。じゃあ今度試してみる」

母さん「扱いには気をつけなさいよ」

衛「へいへい、わかってるって」

母さん……。 (ほんとうにわかってるのかしら……。あつ、いつけない洗濯物) 庭へ急ぐ母

タッタッタッタ

衛「おーい、千鶴」

千鶴「あつ、衛。どうかしたの？」

衛「いや別にどうってことわないんだけど……。なんか変なことあったりしたか？」

千鶴「別に……。そうだ、衛。ちょっと買い物に付き合って」

衛「いいけど、ってちょ、おま首……」

チーーン

がさがさ

衛「まだ買うのかよ」

衛の両手には買い物袋がいっぱい・・・
千鶴「ごちゃごちゃうるさいわね!」

衛「た、ただいま」

母さん「おかえり。ずいぶん遅かったわね」

衛「ああ、千鶴に買い物に付き合わされてね……。でも、あいつ
なんだか悩んでた」

母さん「何で？理由聞いたの？」

衛は勢い良く首を横に振った。

母さん「じゃ、まだあんたはそこまで言っていないってことね」

衛「そこまでって？」

母さん「悩みを打ち解けあう仲ってこと」

???「あれが神谷家の娘か・・・」

・・・ドカーン

千鶴「なに・・・きや」

第二話 「憑依の力」(後書き)

次は????VS衛です!!お楽しみにーあとの頃遊戯王オンラインの3にはまってまーす!!

第三話 「さらわれた千鶴」

千鶴「んーーーーー!!」

千鶴は必死に抵抗したものの眠らされてしまった。

そのころ・・・

衛「今の音は!!」

母さん「千鶴ちゃんの家のはうだね」

衛「悪い母ちゃんちよっと思ってる」

タツタツタツ

それはひどい有様だった・・・家は半壊していたのだ。
そこにひとつの影が・・・

衛「おい、大丈夫か・・・ってなにやっとなんじゃー!!」

???「いえこの人をさらってるんです」

と、その腕に抱えられてる人を見た。それは千鶴だった。

衛「てめー、家半壊させてやることかーおめーはテロ組織化
なんかか？」

???「そつちですか!!それにこれは僕一人でやりましたよ!!」

衛「あほかーーーーーー!!」

と言って???に向かって飛び膝蹴りをしたが・・・しかし、あつ
さりよけられた。

衛「てめー妖だな」

???「いまごろですか!!まあいい、私はサプライズ。このよう
にサプライズが大好きで・・・」

衛「どう考えてもやりすぎだろ!!!!」

サプライズ「そうですかー！？」

衛「そ・う・だ・よ！ー！くそー、憑依槍モード」

サプライズ「oh サプライズ！ー！」

衛は攻撃を仕掛けた。

衛「はーはー、くそー攻撃があたんねー」

サプライズ「こんなものですか。後は任せましたよ。倒したものは褒美を上げます」

と言って逃げていくサプライズ。

衛「までこらー！」

妖たち「行かせなーい」

衛「くそつくそつ倒してもきりがねえ。．．．そういえば母さんが弓モードもあるって言ってたな。解。憑依弓モード。これを応用したら．．．殺虫剤みたいになると．．．思う」（衛は大のブリーチ好きです）

これまたぶつつけ本番でうまくいった。

衛「待ってるよ、千鶴．．．」

第三話 「さらわれた千鶴」(後書き)

いやーほんつと雑談なんですけど遊戯王オンラインがたのしいつつ！！みんなもやってみてねー、一応ですけどユザー名とは違います！！！！

第四話 「サプライズ」

衛「千鶴ー」

サプライズ「もうきたんですかー」 ふてくされて言う。

衛「千鶴を返しやがれ」

サプライズ「返せといわれて返すバカがいますか？」

・・・ヒュー。

衛「だったら力ずくで奪い返してやる」

サプライズ「怖い怖い」

衛はサプライズに向かって突っ込んでく。

衛「うりやー」

どすん。鈍い音が響く。

衛「にやるー。誰だこんなところに落とし穴作ったの・・・」

サプライズ「わたしです」

衛「涼しい顔して言うなや」

あきれた顔をして

サプライズ「だれがこんなたのしいことを？やめるのー」

サプライズは楽しそうな顔して言った。そして指をぱちんと鳴らすと・・・。

なんと衛が宙に浮き壁に突っ込んでった。

ごちーん。

衛「いつてー」

サプライズは笑い転げている。

衛「にやるー」。でも、今の槍じゃ力が足りない。・・・そうだ。母さんが言ってた両手剣はどうだ。・・・解。憑依両手剣モード」

サプライズ「何ですかその姿は？まあ姿かたちが変わろうと関係ありません」

衛「一発だ……」

サプライズと衛がぶつかり合う。

サプライズ「サプライズ。WHAT HAPPEN 僕が負けるなんて」

サプライズは倒れた。

衛「千鶴っどこだー」

千鶴「おい、衛ー」

衛「おい、お前なんでこんなところに……」

確かに。そこは、サプライズと衛が戦ったところだった。

千鶴「あれっ、気付いてなかったの？」

衛「ああ」

千鶴「まあいいや。帰ろう」

衛「ああ」

第四話 「サプライズ」(後書き)

いやー毎回雑談なんですが遊戯王オンラインたのしすぎるっつ。
こんなしかかけなくて寸ません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9838v/>

憑依 神の力を操るもの

2011年10月9日02時08分発行